

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年11月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200058		
法人名	有限会社 アコード		
事業所名	グループホーム ユートピア	ユニット名	1F
所在地	〒316-0034 茨城県日立市東成沢町3-23-13		
自己評価作成日	平成28年7月4日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890200058-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年8月4日	評価機関 決 済 日	平成28年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様には「自分らしい生活」を送っていただけるように支援するという方針のもとに、入居者様が自分で決めて自分で行動できるような環境を作ることに力を入れて取り組んでいる。そのために必要な介護技術の研修を受けて、研修を受けた職員を中心に、全職員が介護力のレベルアップに向けて努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅地に立地し、法人代表者が経営するIT関連会社と併設している。全職員はインカムという無線を使用して情報の共有化を図っており、きめ細やかな利用者支援に役立っている。
職員の研修にも力を入れており、利用者への言葉遣いや配慮に加え、自尊心や自立心を大切にされた介護が行えるよう支援している。
事業所では主治医と家族等と相談をしながら、少しずつ認知症の薬を減らすよう取り組んだ結果、利用者の意思による訴えや会話が増えるとともに、ふらつきがあって表情の乏しかった利用者が、レクリエーションに参加して一緒に交流活動を行うなどの効果が表れている。
職員は利用者がその人らしい生き方ができるよう、日々心がけながら献身的に支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を貼って、職員は毎日確認することで理念にそって実践できるように努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を代表者と管理者、職員で作成し、事務室や廊下の掲示板に掲示している。 職員は出勤後に各自必ず事務室に掲示してある理念に目を通すこととし、共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、敬老の集いなどに参加したり、敷地内に来る移動スーパーの利用により地域の方と交流している。	事業所に近隣住民が来訪し、野菜や近くの漁港で獲れたての近海魚のお裾分けを貰っている。 利用者と職員で事業所の道端に出て、小学生の下校の様子を見守ったり、小学校で行われる三世交代交流会や敬老会に参加している。 利用者は敷地脇に毎週来る移動スーパーで買い物をする際に、買い物に来た地域住民と挨拶を交している。 楽器演奏や踊りのほか、近隣住民が10日に1回お話し相手のボランティアに来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方には入居者様と一緒にお茶を飲んだりして認知症について理解していただけるようにしている。また、認知症相談窓口を設置している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告に対する意見など参考にしてサービス向上に努めている。また地域の情報なども提供していただいている。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、ボランティア代表、職員で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、委員からは率直な意見を取り入れて情報交換をしている。 委員からの提案で、地域の漁港祭りに利用者と職員で参加し、駐車場を確保してもらったり、あらい汁を振る舞ってもらうなどの配慮を受け、楽しく参加することができた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で取り組みなど報告させていただき何かあればいつでも相談させていただいている。	管理者は電話だけでなく、要介護更新申請や居室の空き状況を報告するほか、ケアプラン作成のために必要な事務手続きについて確認のため、直接市の窓口に出向き情報交換をしている。 市主催の事業者懇談会に出席し、制度の変更点について確認をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学んで、具体的な事例について話し合って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成するとともに、前回の外部評価の結果を受けて、新任職員だけでなく全職員に年1回内部研修を実施し、身体拘束となる具体的な行為について理解している。 以前、施錠していた居間の出入り口は、話し合いの結果玄関共々職員が見守りをすることで解錠している。 現在ベッドに4点柵を使用している利用者があるが、身体拘束を行わない取組みを話し合い、その結果を再検討記録に残すまでには至っていない。	身体拘束を行わない取組みをするため、再検討記録の書類を残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で話し合うことで情報を共有し、お互いに注意しあいながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会資料を基に話し合い情報を共有することで理解を深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明してご家族様が理解納得したうえで契約の手続きを進めている。疑問な点など聞きやすい環境づくりに努めている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽に何でも話しやすい関係を気づいている。また家族会で出された意見や要望などサービスに反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善の提案をメールなどでいつでも出せるようにしている。それ以外でも常に話しあって改善できるようにしている。	管理者は日頃から話し易い雰囲気づくりを心がけるとともに、毎朝の申し送り時や電子メールを活用して全職員から意見等を聞いている。 時間を決めてトイレ掃除をしていたが、職員からの意見を受けて、その都度する方法に変えたところ、職員の負担が軽減して利用者支援の時間が増えたほか、早番と夜勤者の出勤時間を早めたことで、サービスの質の向上につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	インカムの導入により職員同士の情報の共有がしやすくなった。トイレ内の環境整備をしてトイレ介助の負担が軽減された。また入居者様の状況の変化に伴い勤務時間を変更している。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修を受ける機会を作って、職員の介護技術の向上に努めている。研修のためのベットも準備して職員同士で介護技術を練習するための環境を整えている。自主参加の研修の案内を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の事業者連絡会や、地域ケア会議などへの参加しやすい環境を作り、他事業者との交流する機会を増やすことでサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りにより「私の気持ちシート」を作成して本人の不安、要望など理解することで安心していただけ、信頼していただけるような関係を作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っていることを聞かせていただき理解することで、ご家族様との信頼関係を築き、なんでも話せる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況の把握とご家族様の意向をしっかりと確認して必要な支援を見極めるようにしている。必要であれば他のサービスの説明もするようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さまとは家庭的な雰囲気の中、共同して調理したり、片づけを手伝っていただきながら日々の生活を共有する者として感謝の気持ちを伝え良い関係を築くように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と相談しながら、ご家族様でなければできない部分を協力していただき力を合わせて支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や本人に聞き取りして「私の支援マップシート」を作成して支援に努めている。	センター方式のわたしの支援マップに記載した入居時の聴き取りや、利用者との日々の会話の中から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努め、新しく把握した内容はわたしの支援マップに書き足しながら周知している。 職員が同行して、昔懐かしい場所にドライブに行ったり、馴染みの理美容室や自宅への外出・外泊のほか、外食などに家族等の協力を得ながら出かけ、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ話題や趣味の話職員が間に入って入居者様同士がうまくかかわりあえるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様や施設関係者から経過を聞いたリアしてフォローしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から一人一人の思いを把握して、できるだけ本人の意向にそえるように取り組んでいる。	管理者と職員は利用者の表情や仕草、態度のほか、個人記録や介護ノートから一人ひとりの思いや希望の把握に努め、共有している。 職員はインカム（無線ヘッドフォンマイク）を利用してその都度情報を共有し、意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話しを聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人から聞き取りして把握するようにしている。また、利用していた他施設からの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、本人の状態を把握して申し送り棟で全職員が情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回、担当者がモニタリングを行い、気付いたことを記入している。このモニタリングの内容を踏まえてケアプランに反映させている。	介護計画は3ヶ月毎を基本とし、利用者や家族等の意見や要望を聴いた上で管理者や看護師、ユニット毎の担当職員の意見を取り入れて、計画作成担当者が作成している。 毎月のモニタリングと短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定して見直し、毎月末に家族等に確認を得ている。 利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは記録して日誌で情報の共有をしている。介護連絡として統一したケアができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人の要望などあればその都度検討している。移動スーパーを利用して入居者様にも買い物をしていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流センターの夏祭りや、地域の敬老会などに参加して季節を感じながら地域との交流を深めている。社協		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターには月2回の往診を受け健康管理をしている。ホームドクターとは24時間連絡が取れる体制で、相談及び指示をいただける。内科以外の病院受診にはご家族様の協力をいただいている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、家族等が付き添えない場合には職員が付き添っている。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療や、月2回の訪問歯科診療を支援し、受診結果は家族等に電話で報告するとともに、個人記録や受診ノートに記載して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者様の日々の体調の変化に注意して、何か変化があるときには24時間連絡が取れて相談・指示をもらえるようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを作成して入居者様の情報を提供している。入院中は病院担当者からの情報をこまめに得るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については入所時に終末期意向確認書を作成している。重度化についてはご本人の状態を踏まえて、医師・看護師を含めてご家族の意向を確認して話し合って看取り介護計画書を作成している。	重用事項説明書に重度化や看取りに関する事業所の意向を記載し、契約時に利用者や家族等に説明をして書面にて同意を得ている。 現在は看取りを行う対象者はいないが、看取り介護を行う場合には「看取り介護計画」を個別に作成し、カンファレンスを随時開催して職員の対応方法や役割分担を決め、状況に応じた繰り返しの話し合いと合意を得ている。 緊急時対応マニュアルを作成しているが、ここ1年それにとりあつた職員の内部研修を行うまでには至っていない。	看取り介護を行う事業所として、職員の心構えと利用者への備えのために、重度化と看取りに関する研修を早急に行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制、および急変時マニュアルにより全職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、災害マニュアルで全職員に理解してもらっている。地域の方には運営推進会議や日頃の交流により協力していただける関係を築いている。	消防署立ち会いのもと夜間を含む避難訓練を年2回実施し、訓練の記録を作成するとともに、反省会を行って課題を明らかにし、次回の訓練につなげている。 東日本大震災の際は、事業所が地域の避難所となっており、津波のハザードマップを事務室に掲示して職員に周知している。 災害に備えて米は常に10キロ余分に購入しているほか、水やレトルト食品、缶詰、カンパン等を一覧表を作成して管理し、賞味期限が近づいたら献立に加えて利用者と職員で試食している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないような丁寧な言葉かけを行っている。排泄などの誘導や確認には他に聞こえないように配慮している。	プライバシー保護に関する勉強会を実施し、職員は利用者の人格を尊重するとともに、自尊心に配慮した言葉かけを心がけている。 写真の掲載を含む個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等に説明して書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる事、出来ない事を確認しながら、入居者様が自分で決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いて、入居者様のペースで過ごせるように配慮して、過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら季節に合った洋服を着ていただけるようにしている。起床時にはホットタオルを提供して顔を拭いていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際にはメニューを説明して、それぞれの好み（パン、さくらでんぶなど）のものを提供したり、食べやすくしてそれぞれに合わせたに食事の提供に努めている。	献立は利用者の好物や苦手な物を踏まえて職員が作成し、自家菜園で採れた野菜を食材に加えたり、苦手な食材の場合には代替え食を用意するなど、食事を楽しめるように配慮している。 月1回の外食や年1回家族等を招待してバーベキューを行っているほか、誕生会には利用者の希望する物で祝っている。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきなどを一緒に行っており、職員は利用者と同じテーブルに着いて、食事介助をしたり楽しく話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事・水分の摂取量を確認して記録することで摂取量不足に注意している。おやつを増やしたり、好きな飲み物やゼリーなどで食事量や水分を確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年2回の歯科検診により口腔内の状態を把握して、ブラッシングや個々にあったケアの仕方の指導を受けて毎日の口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、時間を決めてトイレ誘導してトイレでの排泄の自立に向けて支援している。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 尿意がわからなかった利用者が、適切な時間毎の誘導によりトイレでの排泄が可能となったり、おむつ対応の利用者が紙パンツや尿取りパッドに移行するなど、利用者一人ひとりに合った声かけをして排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の記録で排便確認して、便秘については腹部のマッサージや乳製品の摂取など個々に予防対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば、曜日や時間にとらわれず、いつでも入れるように対応している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望に応じていつでも可能となっている。 入浴を拒む利用者に対しては、時間や職員を替えて対応したり、歌を歌いながら誘導するなどしている。 柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を利用し、季節感や入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡など自由い自分のペースで休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにより服薬ミスの無いように努めている。 精神薬（認知症薬含む）の減薬に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や得意なことをやっていただき、役割を持っていただくことで張り合いのある生活を送っていただけるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出としては近所の散歩、季節のドライブなど支援している。月ごとの外食会、年1回の遠足はご家族様の参加もあり協力していただいている。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩し、日頃から近隣住民と挨拶を交している。 車いすの利用者も一緒に、馴染みの花見の名所にドライブに出かけたり、年1回遠足を企画し、水族館などに家族等も同行で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週2回の移動スーパーでは、自分のほしいものを選んで、自分の財布から支払いして、自分で購入する喜びを感じていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればいつでも電話できる対応をしている。ご家族様などからの電話や郵便物はいつでも取次いでいる。正月には年賀状を出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しはカーテンで調整して、まぶしくないように配慮している。庭に咲いた草花など飾ることで季節を感じていただけるようにしている。	玄関には季節の花が活けられ、廊下には行事の写真を掲示して明るい雰囲気となっている。 居間兼食堂には固定した長椅子があり、観葉植物が並べられ憩いの空間となっているほか、掃き出し窓から続くウッドデッキと、2階の屋上にはベンチを配置し、利用者は思い思いに自由に寛ぐことができる環境となっている。 トイレには両側に固定式の手摺と跳ね上げ式の手摺を設置し、安全面に配慮しているほか、引き下ろしできる棚にはパッドや掃除用具が収納しており、足元に配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブル席のほかテレビの前にソファなどを配置して、好きな場所で過ごしていただけるようにしている。ウッドデッキと玄関前にはベンチを置いて気軽に日光浴や外気浴をして気分転換できるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのある家具などを持ってきていただき、ご家族様のご協力それぞれに合わせた環境づくりに努めている。	居室にはカーテンやエアコン、ベッドが備え付けられている。 管理者は入居時に使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類や衣装ケース、目覚まし時計、筆筒、家族の写真、机、本、スケッチブックなどを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで廊下やトイレには手すりが付いていて安全に歩けるようにしている。室内でも移動型手すりを設置して、ふらつき・転倒の予防対策をしている。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ユートピア

作成日 平成29年1月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	職員に対して看取りについての内部研修を行うまでには至っていない。	見取介護を行う事業所として、職員の心構えと利用者への備えの為に、重度化と看取りに関する研修を行うことを期待する。	看取りに関する勉強会を行う。	今期中に実施予定
2	6	身体拘束についての再検討を決められた様式で記録に残すまでには至っていない。	身体拘束を行わない取り組みをするため、再検討記録の書類を残すことを期待する。	再検討記録を作成する。	実施済み
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。